

## 筑波大学留学生へ新米寄付

2021年10月

NPO 法人 つくば日中協会

早いものでいきなり寒い秋に入ります。今年はコロナ禍で、第3波第4波第5波の連続により、蔓延策や感染防止緊急事態宣言などで長い在宅勤務や職場を失ってしまった会員やアルバイト先をなくなった留学生が沢山います。

この状況の中で、茨城大学農学部様及びコマツ様より、地域の居場所づくりなどに取り組む茨城県内の市民活動団体に対し、新米を寄贈の活動がありました。アルバイト先がなくなり、収入が減少した留学生のために、当協会は寄贈の第2弾の新米をいただけることになりました。

10月15日早朝、気温が低い連日の雨の日から打って変わり、素晴らしい晴天に恵まれ、青木副理事長は用意した運搬用のレンタカーに乗って土浦から、唐理事長・厳理事と筑波大学留学生4名は車2台でつくばから、新米を受け取る場所の稲敷郡河内町へ向かい、通勤時間帯に渋滞を予測したものの約束した10時前に到着しました。



そこで寄贈側の茨城大学研究・産学官連携機構の平山太市博士にご挨拶の後、玄米を車に積んで、車3台で筑波大学に近い桜農協にある精米場へ向かいました。



留学生たちは、学習と勉強研究以外に、普段玄米に触れる機会がほとんどないので、そこで青木さんが玄米を精米するプロセスを教えながら、精米しながら、農協桜野菜売場の方たちのご親切な協力により5kg袋に小分けしました。午後2時に2段階を分けて大学へ新米運びが終わりました。



その後中国留学生学友会の役員たちの協力のお陰で、この活動に参加した会員と筑波大学留学生たちへ新米約500kgを90人余りに手渡しました。新米を受け取った留学生はすぐ新米ご飯を炊いたなどの情報も入りました。



留学生へ  
新米を手  
渡す



留学生たちへ新米を寄付することには、長いコロナ禍の影響により、経済面における少しの助けになるだけではなく、日本の米文化をより一層の理解と勉強にもなれますので、本当に嬉しいことなのです。

なぜ精米（3分、5分、7分、白米標準、無洗米）するのにこのように細かくわかるのか、普段の食生活に米文化の意味などについても理解するようになりました。協会会員と一緒に、玄米から精米のプロセスを実習しながら勉強ができたことは、長年の国際交流活動の中にも、日本の米文化だけではなく、木目細かい管理習慣の理解や、教室で学べないことも楽しみながら珍しい体験ができたと思います。とても有意義な国際交流活動になりました。

最後に、もう一度茨城大学農学部様とコマツ様へ、そしてこの活動に携わっておられる茨城 NPO コモンズ様へ、更に活動に参加した筑波大学中国人留学生学友会様へ感謝の意を述べさせていただきます。どうもありがとうございます。非常感謝！